

令和7年度 第4回小松市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和8年3月25日(水)
開会 午後1時30分 閉会 午後2時30分
- 2 会 場 小松市役所3階会議室
- 3 出席者 小松市長 宮橋 勝栄(議長)
小松市教育委員会
教 育 長 山本 民夫
委 員 中惣 恭子
委 員 村井 啓介
委 員 浅蔵 一華
委 員 表 幹也

(事務局関係)
総合政策部長 藤井 勝司
総合政策部 総合政策課長 太田 司
総合政策部 総合政策課主査 秋野 力
教育委員会事務局 事務局長 長谷川 巖
教育委員会事務局 教育庶務課長 中川 久美子
教育委員会事務局 学校教育課長 新名 孝
教育委員会事務局 生涯学習課長 中屋 清志
- 4 討議事項 ・小中学校配置最適化について
- 5 会議の経過及び発言
- 開 会
- 宮橋市長あいさつ
- ・8月にも皆様の意見をいただいた議題であり、市としても本気で取り組んでいかなければならないと思っている。
 - ・教育は最良の投資である。子育て支援も大事な要素ではあるが、教育の質を向上させることで、結果として小松市が選ばれる地域になると考える。
 - ・教育の質を向上させるために、教育環境の整備を我々がしっかりと行っていかなければならない。皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。
- 討議事項1
- ・小中学校配置最適化について

<議長>

- ・議題「小中学校配置最適化」について説明をお願いしたい。

<教育委員会事務局 長谷川事務局長> (別添資料に基づき、小松市学校規模配置最適化基本方針の概要、本市の小中学校の現状と課題について説明)

<議長>

- ・教育委員の皆様も計画訪問等で学校に行っていると思うが、現状や皆様の認識などをお伺いしたい。

<中惣委員>

- ・計画訪問で強く感じることは、子どもの数、教員の方々の接し方、学校の設備などの「差が激しい」ということ。
- ・少人数でも教育効果があれば単級でも問題はないと思うが、あまりにも少ないとその効果も小さいのではないかと危惧している。その現状を理解している市民の方が少ないという、アンケートの回答率に驚いた。
- ・よって、市としては、まず現状を市民の方々に広く伝えることが大事ではないか。

<議長>

- ・同じ市内の義務教育の中で、各校の特色ではないところで差があるのは望ましいことではない。

<村井委員>

- ・何度かお伝えしたが、住んでいる地域によって学校が決まるという中で、各学校に大きな差があるのは好ましくないと思う。市内のどこでも同じレベルの教育を受けられるということを守っていききたい。
- ・人数の問題以外にも、新しい校舎と古い校舎では快適度合も含めて違うと思う。通う学校によって差があることは解消すべきではないか。

<浅蔵委員>

- ・学校によって差があるのは良くないと思う。
- ・今後小中学校に入学する子がいる家庭は割と関心が高いと思うが、そうでない家庭は広報などに出ていても、目に留まっていないのではないか。
- ・その人たちにも分かってもらえるように発信すべきと思う。

<議長>

- ・まさに保護者世代やお孫さんがいる方々のご理解いただいているところ。
- ・直接学校とは関係がなくなった方々も、地域の中で力を発揮されている。理解しても

らえるよう、生の数字を出していく必要がある。

<表委員>

- ・学校によって差があることを、子供たちは分かってないと思う。やはり同じような条件の教育環境を整えることが大事ではないか。
- ・統廃合が地域の衰退へつながるのではないかという意見があるなら、それに対する説明も気になる。

<議長>

- ・子供たちが大人に比べ現状がわからないことは当然だと思うので、それが差にならないようにしないといけない。次の話に移りたい。

<教育委員会事務局 長谷川事務局長> (別添資料に基づき、小松市学校規模配置最適化基本方針で目指す学校環境について説明)

<議長>

- ・学校教育環境というところで、教育の質や学校施設の部分など、皆様が感じていることについてご意見いただきたい。

<浅蔵委員>

- ・キガスクールの開始以降、教室の個人の机が本当に小さいと感じている。タブレット、教科書、ノートを広げる必要があり、もう少し大きい方がよいのではないか。

<議長>

- ・実際にそういう状況になっているのは認識している。教室の広さが足りないという問題もあるため、今後教室の設計の仕方も、変えていくべきだと思っている。
- ・松陽中学校の増築部分は広くする。国の方針などでクラスの人数が少なくなることも活かしながら、机の大きさの変更を考えていく。

<表委員>

- ・授業で子供たちはタブレットを使っているが、操作方法に特化した授業や勉強の時間は設けられているのか。

<新名学校教育課長>

- ・生活の授業の時間に写真を撮る練習など、発達の段階に合わせた操作を実施。また、自習の時間や給食・掃除と5限目が始まるまでの時間などに、自主的にタイピングの練習をしている子もいる。

<長谷川事務局長>

- ・児童のタイピングの技術については各学校でどれくらい能力があるかを数値で把握している。能力の低いところは、基礎的な学習としてタイピングの強化も今後行っていく必要があると思う。

<山本教育長>

- ・タイピングコンテストを実施している学校もあり、優勝を目指し空き時間に一生懸命練習している児童も見られる。

<表委員>

- ・机、教室のレイアウトだけではなく、校舎の老朽化への対策も考えると莫大な予算が必要だと思う。市として優先的に投資をしていく基準はあるのか。

<藤井総合政策部長>

- ・教育系予算はハードもソフト系も優先順位を非常に高くしている。
- ・国等の様々な計画との合致性に加え、補助金の有無など、できる限り有効な財源を確保していくのも大事な視点である。それを見定めながら、福祉や医療と合わせて教育系予算は重要性が高いという認識で配分をしている。
- ・よって今後も、計画を定め、それに基づいて市の財政、資金をしっかりと作って優先的配分というのは、間違いなくされていくことになる。

<村井委員>

- ・前回の会議で、電子黒板の話題が出た。例えば電子黒板や ICT デジタルツールの活用を学校訪問で見てる中で、非常にそちらに寄っている授業もあれば、書くことを重視している授業もある。先ほどの規模感の話と同様にその差があると感じる。それぞれ高め合えるよう、先生方のマイナス面に対する研修を行えばよいのではないかな。
- ・我々の頃と比べると、机のレイアウトを変えるパターンが多い。スクール形式だけでなく、グループワークやどこかのクラスに集まることもある。机の移動を前提とした教室の大きさや動線を考慮した設計が必要だと思う。
- ・全ての学校を、新しいレイアウトが可能になるよう建て替えることは予算の関係上難しいと思うが、我々の頃と比べて子供の数が減っており空き教室もあるため、そこを多目的な使い方ができないのか、有効活用できないのか考えていけばいいと思う。

<山本教育長>

- ・支援学級が増えてきており、空き教室をかなり使っている学校が多い。それでも空くということは、それだけ子供の数が減っているということ。

<中惣委員>

- ・学校施設の現状と課題のアンケートでは、校舎や設備が整っているという保護者からの評価が相対的に低いとあるが、計画訪問に行って、学校によって有効スペースを使っているかどうかには大きな差があると思う。
- ・狭いながらも廊下や小さなスペースを有効に活用している学校もあれば、広いスペースをそのまま持て余しているところもあった。これもやはり教員の方々の意識の差ではないかと感じている。
- ・また、以前は保健室や図書室で勉強している子供がいたと思いますが、最近は少なくなったと感じる。これは不登校で学校に来なくなっているということか。

<新名学校教育課長>

- ・教室に入りにくい子供たちのリラックススペースのような教室をどの学校にも設けており、保健室ではなくそちらで学んでいる。

<中惣委員>

- ・逆に不登校は年々増えていると思うが、ステップルームにも入れない子どもが増えてきているのか。

<新名学校教育課長>

- ・そういうお子さんも一定数はいる。学校に足が向かない子はふれあい教室に行っているが、家から出れない子もいる。

<中惣委員>

- ・厳しい意見かもしれないが、各学校の図書室にも差がある感じている。子どもたちのことをよく見ている司書の先生や、子どもたちが入りやすい環境づくりをしている図書室もあれば、あまり整理整頓がされておらず、殺風景な図書室もあったりする。
- ・例えばステップルームに入りたくない、一人で図書室にいたいというお子さんもいるかもしれない。もう少し暖かい雰囲気を受け入れられるような図書室にしてほしいと感じる学校もお見受けする。
- ・先生方がいかに子どもたちを思い、有効に施設を活用しているかということをいつも計画訪問で見させていただいている。

<議長>

- ・学校により差があるとは思いますが、改善すべきところはしっかり改善していかなければならない。スペースを有効活用している学校もあるが、アンケートではそういう部分よりも老朽化などの部分が前面に出てきているのかもしれない。これは本当に真摯に受け止めていかないといけない数字だと感じている。

＜教育委員会事務局 長谷川事務局長＞（別添資料に基づき、小松市学校規模配置最適化基本方針の小中学校における適正規模・適正配置について説明）

＜村井委員＞

- ・配置に関して、通学環境というところが少しハードルになると思っている。例えば夏の暑さや熊、大雪など、歩くのに厳しい要因はある。今は近い学校に歩いていくことが基本だが、そうでなくなった時に安全安心に通える手段が課題になると思う。

＜議長＞

- ・毎日通うことになるため、安全安心ということは欠かすことができない。昨今の気象条件や交通状況に合わせて検討していくべき。
- ・常にスクールバスを出している学校もあるが、そういったところを拡大していく方法もあると思うし、逆に言うとスクールバス以外の路線バスを利用して社会性を身につけるといえる考え方もある。地域の中での教助という部分も出てくるかもしれない。
- ・そういったことも含めて、安全安心に様々な交通を利用しながら取り組んでいきたい。

＜中惣委員＞

- ・村井委員と同意見で、通学手段が一番心配である。小規模校では人数も少なく1人で下校になることもある。山道を1人で帰るといえることは、街中の学校と違う心配点になる。市としてどう整えていくかが大事になるのでは。

＜議長＞

- ・犯罪も含めて非常に厳しい部分。スクールバスが基本にはなる。再配置で移る学校はどうしても通学時間が延びるという話になるので、様々な角度から考えたい。

＜表委員＞

- ・子供はあっという間に大人になるので、すぐに動いたほうがいいと考える。
- ・先日、小規模校の卒業式に参加したが、卒業生2名と言われると、6年間でどんな学校生活だったのかと想像してしまう。先生や子供のためにも、早く適性化を進めるべきだと考える。

＜議長＞

- ・実際に地域の方とも話を始めている学校もあり、こういった過度に小規模化な学校については、優先的に取り組んでいかなければならないと思っている。

＜浅蔵委員＞

- ・基本的には皆様の意見と同じ。
- ・安宅小と国府小はそのままのメンバーで中学に行くことになる。やはり少なくとも小

学校2つが合わさり、最低でも9年間全く同じメンバーという状況にならないように配慮してほしい。

- ・また、災害時の避難所として学校が多く指定されているが、今後閉鎖になる学校や施設が避難所になっている場合、閉鎖中の施設に避難するのか、別の代替案があるのか。学校がなくなった場合にどこに避難すればいいが分からない方もいるかもしれないので、そういう部分も含め検討すると地域の人の納得にもつながるのではないかな。

<議長>

- ・現状、西尾小はまだ指定避難所になっている。金野小は松東みどり学園に避難する。波佐谷小も一部避難所機能を持たせる形で、今使っている民間企業の方にご理解をいただいている。
- ・指定避難所の見直しも5月に向け行っている。公立小学校だから避難所ということではなく、私立や県立の学校施設も含め、指定避難所の考え方を整理している。
- ・また、廃校した場合の校舎等の有効な活用策についても、全庁を挙げて取り組まなければならないと思っている。市が活用すると思われるケースが多いが、波佐谷での民間による学校活用が非常にうまくいっているのも、こういったことも踏まえながら官民挙げての有効活用策を考えていければと思う。その中で避難所としての機能も検討していく。

<議長>

- ・今回、基本方針の案についてご意見をいただき、後日パブリックコメントで出てきた意見も踏まえ、最終取りまとめをする。これを基準としつつ、来年度以降に具体的な話に取り掛かっていく。

<山本教育長>

- ・今年度、いくつかの学校に運動会を見に行ったが、少人数のところは2学年合同で競技を行うこともあった。そうなると、補助員になる場面も含め休む暇がなく、ゆっくり応援することもできない。
- ・文化面でも授業の中でも、様々なところで引っかかりが出てくるので、本当に子供たちのことを思うと、やはり早く取り掛からなければいけないなと強く思っている。

<議長>

- ・新年度は、体制も新たに組んでいければと思っている。
- ・また皆様にもご支援お願いしたい

以上

○閉 会